植物研究雜誌
第二巻 第六號
大正十一年十二月三十日

○日本植物學界ノ世界ニ於ケル地位（承前）

牧野富太郎

「日本ノ植物學ノ世界ニ於ケル地位」ハ何時モ三四段ハ後レテ居ルト思フ彼ガ五歩歩メバ我ハ二歩行クト云フ様ナ有様故之レニ追附クニハ並ミ大抵ノコトデハ出來ナイ況シテ上ニ立ツ人ノ熱烈ナル盡力モ尠イシ又金モ無イカラ萬事ガ思フ様ニ運バナイ採集モ出來ネバ書物モ買ヘヌシ諸方面ノ調査モ出來ナイ考ヘ來レバ誠ニ情ナイ譯デアル、アーネスト、ヘンリー、ウィルソン（E. H. WILSON）ト云フ人ガアル今北米合衆國ノハーバート大學附屬ノ「アルノルド、アルボレーツム」ト云フ樹木園ニ勤テ居ルガ氏ハモト英國ロンドンノヴィッチ氏經營ノ植木屋ニ居ッタ人ダト云フ同氏ハ右ノ樹木園ヨリ東洋ヘ派遣セラレ日本ト支那トノ植物調査（主ニ木本植物ノ）ヲ擔當シテ居ルガ其俸給手當ガ一年ニ一萬弗即チ我ガ二萬圓デトテモ日本デハ一年ニ其レ程ナ金ハ使ヒ切レヌサウダ此様ニ金ガ澤山アルカラ支那ヘ行ケバ萬事大袈裟ニヤルシ我日本ヘ來テモ其通リ其遣リ方ガ積極的デ中々活潑デアル西支那ヘ行ッタ時ノ書物ガ二冊モ出版サレ又支那ト日本トノ植物ノ寫眞ガ數百枚モ出來テ居ルシ又支那ト日本トノ樹木ヲレーデル（A. REHDER）ト云フ學者ト一緒ニ研究シタ書物モ數冊公ニナッテ居ル又日本ノ櫻ノ書物並ニ日本ノ松柏類ノ書物モ出來テ居ル元來金ガ潤澤ユヱ自由自在ニ其處此處ト驅ケ廻ッテ大々的ニ標品モ蒐集シ又視察モシ調査モシテ行クモノデアルカラ植物上種々ノ方面ガ直グニ調ベガ附イテ仕舞フ又亞米利加ヘ歸レバ參考スベキ書籍ハ揃フテ居ルシ又同時ニ照合スベキ標品モ豐富デアルカラ新タニ採集シ來ッタ材

料ノ研究ガ直グニ完了スル實ニ羨マシイコトダト思フト同時ニ我日本ハアーアー情ナイ國ダトコボサザルヲ得ナイノデアル

植物學ヲ發達サセルニハ今日デハ是非ニ之ヲ世間トモ結ビ附ケテ人生トモ交渉ヲ厚クシ活キタ學問タラシメ成ルベク金ヲ得ル樣ニセネバトテモ物ニハナラナイノデアル金ガアレバ研究デモ調査デモ何ンデモ思フマヽニ出來ルガ金ガ無イト來タ日ニハ實ニミジメナモノデアル是レハ誠ニ知レ切ッタ道理デアルニモ拘ハラズ我學幹部ノ人々ガ大聲疾呼シテ其方面ニ盡力シナイ又假令スルコトガアッテモ其盡瘁ノ度ガ微温的デ熱誠ガ足リナイカラ何モカモ思フ樣ニナラヌ始末デアル現在ノ有樣ガ前述ノ樣ナ風デアル故ニ私ハ之ヲ非常ニ殘念ニ思ヘドモ立派ナ理窟デモ非人乞食ガ言ッテハ通ラヌト同ジコトデ私ノ如キ地位モ學位モナイ者ガ幾等聲ヲ大キク出シテ見タ所デ一向ニ何ノ反響モナク又自ラ起ウトシテ見テモ金ノ武器ガ無イカラ其レモ無論ダメ、タヾ折ヲ得テ此ンナ會ノ席上ナドデ其抱負ノ叫ビヲ痒セタ聲デ揚ゲテ滿足スルヨリ外ハナイ始末デアル

我日本現在ノ植物學ノ情況ハ先ヅザット上述ノ樣ナ有樣デアッテ其地位ヲ富士山ニ喩ヘテ見レバ凡六合目位ノ處デアル然シ其レデモ中ニハ世界ヲ驚カシタ研究モ出タコトモアルシ又其レニ前後シテ種々ナ研究論文モアルノデ西洋人ハ爲メニ日本ノ植物學ノ存在ヲ世界的ニ認メ日本ノ學者ヲモ相當ニ尊重シ日本人ノ論文モ頻々各國デ引用セラレテ居ル又新植物ノ名稱ナドモ日本デ日本學者ノ命名シタモノヲ向フデモ用キテ居ル然シ其レナレバ萬事ガ西洋諸國ト對等ノ位置ニナッテ居ルカト云フト決シテサウデナク篤ト深ク自ラ顧ミレバ既ニ前ニ述ベタ樣ニ書物モ少ナケレバ標品モ少ナク完全ナ植物園モ無ケレバ完備シタ博物館モ何モナイ、ソシテ植物學者ハ皆々專心一意ニ斯學ノ研究ニ沒頭シテ居ルカト云フト斷エズ研究シツヽアル人ハ割合ニ少ナク大抵ハ學校ノ先生ニ爲ッテ居ルノデアル園藝ノ方面デモ農業ノ方面デモヤハリ同ジコトデ今大速力デ歩マナケレバトテモ西洋ト對等ノ位地ニハ成レナイ又分類ノ方面デハ植物ノ或ル部分ニハ一人ノ專門學者モ居ラナイノデ其方面ハマル

デ暗黒デアル此ンナ事デハ無論西洋諸國ニ劣ッテ居ル何モカモ揃ッテ缺ケタ點ノ無イ様ニ成ラナケレバ決シテ對等デアルトハ言ヘナイ

苟モ思慮アル者ナレバドンナ日本人デモ我日本帝國ヲ世界ノ中心ニセネバナラヌト希望シナイ者ハ無カラウト思フ其位ニ考ヘテカヽレバ先ヅ少クトモ東洋ニ覇タル位ノ位地ニハ爲レルデアラウ今日デハ日本ノ植物學者ハ隣國ノ支那ナドニ比ブレバ夐カニ澤山ニ居ル試ニドルフレル氏ノ世界植物學者ノ「アドレッス、ブック」ニ據ッテ見テモ其レガ分ル幸ニ我日本ノ文明ニハ根柢ガアッテ植物學ナドモ其御蔭デ割合ニハ或程度ニ進ンデ居ル我等ハドウカシテ更ニ之ヲ一等ノ地位ニ迄推シ進メネバナラヌト思フ其レガ我等ノ天職デアリ又使命デアル、書物デモ雜誌デモ何ンデモ唯西洋ノモノヲ借リル様ナ域カラ早ク脱出シテ大ニ「日本ノ植物學」ノ光ヲ世界ニ輝カサネバナラナイ此レハ各人ノ努力次第デ出來ナイコトハ決シテナイ、サウスルコトガ我邦植物學者各自ノ重大ナル責任デアルコトヲ植物學者銘々ニ充分能ク牢記シ居ルベキデアル即チ是レガ我植物學者ノ理想デナケレバナラナイ

以上述ベ來ッタ所ハ現下ニ於ケル我日本植物學界ノ實況ノ赤裸々ナ告白デアル私ハ今夜私ノ平素胸ノ中ニ疊ミ込ンデ居ッタ事ヲ諸君ノ前ニ氣兼ナシニ且最モ大膽ニ開陳シ得タコトヲ非常ニ光榮トスルノデアル　(了)

○「ウェガ號」探檢隊ニ於ケルウプサラ大學植物學教授チェルマン氏ト日本水產植物

千葉醫學專門學校醫學士　今井忠宗

西暦千八百七十九年瑞典國男爵ノルデンスキヨルド氏ノ統率セル「ウェガ」號乗組探檢隊ハ前人未發ノ極地北